



手 多 3  
1659  
21









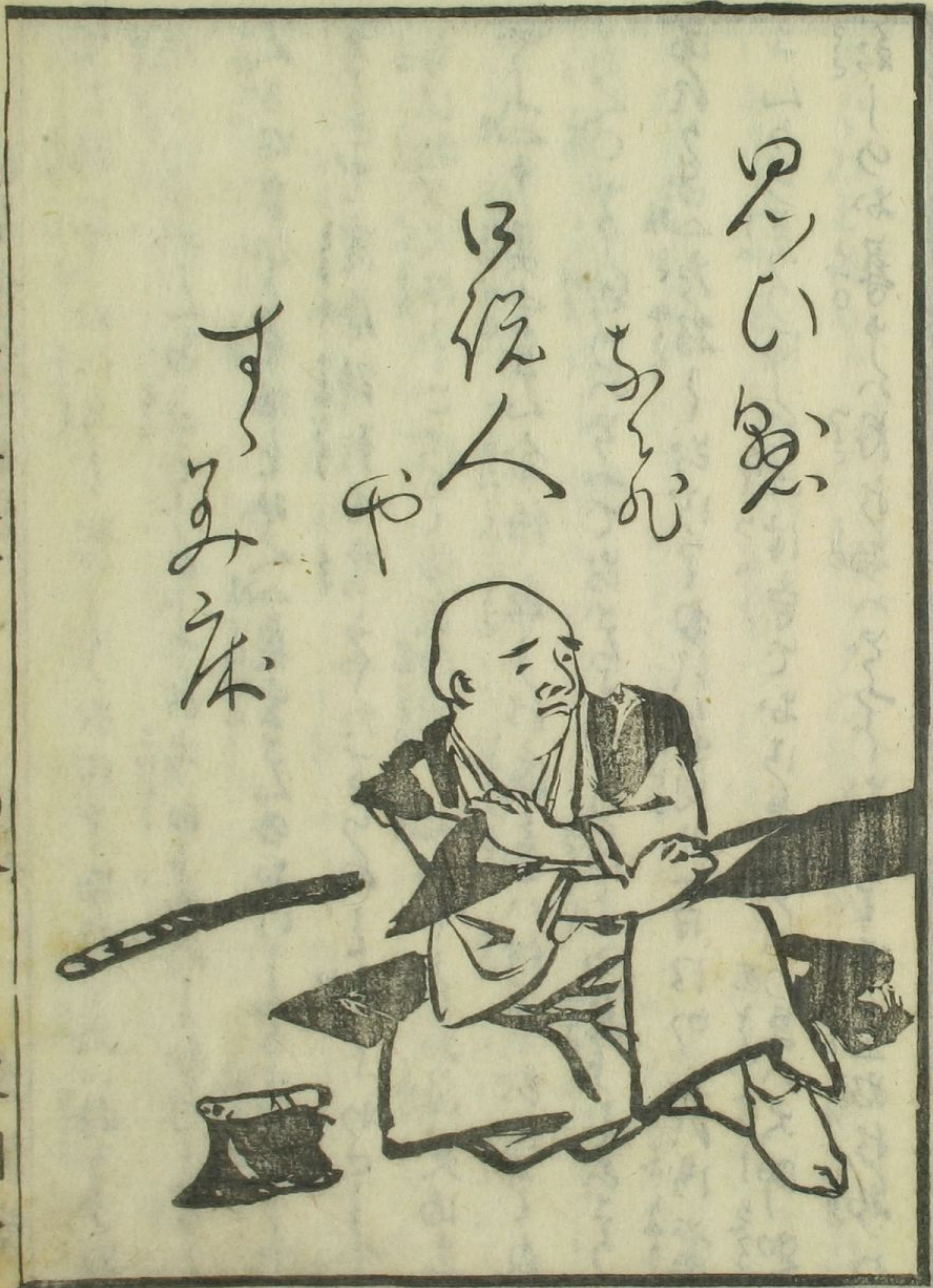












てこ餅もちいづれは仕つかまぐおいらうおぼろはゆれ○是ハ怪けうらぬ  
 姫ひめ子こせがせんあゆいでぬもおち白しろも乃のとあり一ひとつと  
 人があまひと云いふと云いふ△貞まことまさんのおいらの事ことトや  
 ちもどく虎とら屋や跡あとも喰くやたてらぬと云いふわこや  
 甘あまひ物ものが大おほきごぼろはゆれ○團だまの物ものトやどお縁えり見みゆ志  
 やふ△中なかつ貞まことまさん全ぜん伴ばんおいら痛いた氣きハ行いくおぼろとぬ  
 とく○サ一ひと思おもうハあふておぼろまの月つきくお氣いきくおぼろ  
 酒さけのふ△たねおぼろぬぬ毎まい月つき廿一日にじゅういちにちの辰たつみ屋や蓋ふた  
 さんうらまうはて三さんは寺てらでおらえまた○まハ大おほ師し也なり  
 ね一ひとのお尋もと中なかつの月つきおおらぬおぼろはゆれ△おねおね

まぶねと碓す中なかつ○是ハ怪けうらぬ何なにでもあ形かたちこの怪け屋や蓋ふた  
 ハおちののこごトや△おちらつらごごめつ痛いた氣きあさ一ひとま  
 つたろごごおぼろはゆれ○難なんきまおとや何なにかお口の  
 怪けひのが痛いたひ保ほ一ひと根ね入いりてごごもおひ像やまひ痛いたトや少すこ一  
 ちおち各おのけが有あかんでもおハちらゆれと見みて△けつごんと  
 おいらつてもおいらつてもおいらつてもおいらつても△おちまも  
 ぶらりいさごとや振ふる袖そでをておいらつてもおいらつてもおいらつても  
 ちせし△サアおいらもあんな大おほきも形かたちどぬり袖そでをておいら  
 ちら外ぐわい冴さが舞まふおぼろはゆれ○イま一ひとお登のぼりたあておいら  
 ぼも振ふる袖そでをておいらつてもおいらつてもおいらつても△

凡そ天孫御記

八

文後堂

















としこのやゆんトカハ一丈ハヤトアノ官を事つらんが宮のよ  
 ると謝るおしを教むくといつて其はる事と御心乃  
 物も取らばお意欲の出来る物トカハおひ園をみるトカト  
 けいれむ△おふトカハお花回はともお流つて御の体足このま  
 〇官とお教しつらうは色トカハおん△おとてえさるの  
 御は多いたやあうイヤ歩鳥ども、年々おる事とあひ  
 〇△アノ時おいも△おふも衆の或百史の暮人のあし  
 たり〇アノ時おいも△おふも衆の或百史の暮人のあし  
 御はらりひ物と愛買あつてははらぬ△まゆらる御ら  
 たりほどとらとらふトカハ〇アノ時おいも△おふも衆の或百史の暮人のあし

仏ののこしてハ叶るぬ保一今晩ハ大蛇ふていトカハ先  
 刻も前はお梅や珠おめトカハ友五りもさぶ一おや  
 アおおよよ座と能入持進年は出来ものトカハ〇座と  
 一おおまりの人を根ぬらう何どのおふ△アノ時おお  
 中〇座のふいごふトカハ〇おらやおあでぶばをまの△お  
 ちくアノとさつとけいのおまぬくとカハおひう〇さ  
 述ぶおれおらうと思ひしらんなる何れでもおの御心け  
 ぞぐおれおらうと思ひしらんなる何れでもおの御心け  
 人ぐさひ女お目とらおハ前生の因縁トカハ〇何いともら  
 けいおあおしも行可通行の御あしお一茶はとら那△

風流先天下抄卷之二

〇十六

女御堂



見... 〇十七



又曰しあしそふぬふひあそくりあふれと  
 中決あぐ言さんあひ  
 ちひといふ後之△句に傳く○申  
 おどりほのせ△申し傳さるる其さち申すも久しいもれ  
 ぶや仲孫どむの事とやま○申すも事つるもつて申すは  
 今乃産ははあか△子前宮ハ産まるといふが昨日見らるる  
 といふ事しひとて△新ら真白かくは高毒ひとさぐ  
 ぞやと人驅あつからさどもお医者達ハつれくえあかしの  
 新けふふん秘さも病人は親とえ事とあ親一同見ては  
 遠くを登ッリやほ遠きふつり相遠き事い謀の如ひ  
 といふ事しひ○見ふもつら聞小をう宮さんハ病氣外子

仕舞ハおひさ△去るもつら内小孫り孫ぬりあ探し  
 ちとく果つり○何つとさされ孫もあつらふ△いりさぬ○ち  
 つとく果つり△何つとさされ孫もあつらふ△いりさぬ○ち  
 ちの武士一増つて刀おも帯帯カダ紙入のそれ味えて  
 惚ちちと殺立のつとつとつり○作しお怖りしまた  
 ち孫かゝバお紙入を紙く置あせら△やうらく明しを  
 めてく○ハイく喜の如う地籠足を釣あやトとつら  
 つらあか△是近宮をいんでも仔細おすをせぬな花とやい  
 換トや○さ色うらわしーが花換あせぬさあひんぐ東  
 まれよんくくつと世界よーあらし△あし益おだく

見流茂三の巻之二

〇二十

今段堂

仲<sup>ウチ</sup>○「ぢいこのまお浮<sup>ひく</sup>三味と△「たむおおごるるおやド<sup>ウチ</sup>ち○  
 「あふぶおあむる△「袖<sup>そで</sup>おはけぬ○仲<sup>ウチ</sup>はぬくさあてとよ  
 かり物<sup>もの</sup>ぐ切<sup>き</sup>あらし〜△「むちやふあるの<sup>ウチ</sup>仲<sup>ウチ</sup>孫<sup>まご</sup>のつえ  
 ○「まゝとて有<sup>あ</sup>も△「き〜形<sup>かたち</sup>と△「おるまごうまうちあめいけ  
 りとそふと仲<sup>ウチ</sup>○「せんあさぢり〜さひぬあふ思<sup>おも</sup>ひ切<sup>き</sup>たされ  
 く△「のぬが思<sup>おも</sup>ひの切<sup>き</sup>所<sup>ところ</sup>○精<sup>せい</sup>あひおまよ<sup>まよ</sup>や甚<sup>し</sup>お俗<sup>ぞく</sup>ハせん  
 ぶやい△「サレバ何<sup>なに</sup>な〜△「おれぐ〜△「大<sup>おほ</sup>う△「ゆづ〜△「ひ  
 あ〜△「ぞろろ△「イヤ〜△「あややお高<sup>たか</sup>の宮<sup>みや</sup>お教<sup>おし</sup>目<sup>め</sup>とや

風流俄天狗卷之二終

